平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　足立　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしていま

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域別では、4つの領域の中では、「書くこと」の領域が、全国との正答率の差が少なかった。。正答率の開きが最も大きかった領域は、「話す・聞く」領域で、目的に応じて、質問を工夫することなどに課題があった。
	よくできた問題	文章中の言葉を漢字になおす問題の全国の平均との正答率の差が少なかった。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書くなど、記述式の問題に関して正答率が低い傾向にある。短答式や記述式など、書くことに対する苦手意識が起因していると考えられる。

算数	全体的な傾向や特徴など	「数量関係」における棒グラフから，資料の特徴や傾向を読み取ることができる問題に関しての正答率の高さがうかがえた。国語科と同様、短答式、記述式の問題に関しての正答率の低さが見られた。問題の意図を読み取り、考えを記述する力に課題があると考えられる。
	よくできた問題	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができるなどの、数量関係の領域の問題に関しての正答率の高さが見られた。
	努力が必要な問題	示された計算の仕方を解釈し，減法の場合を基に，除法に関して成り立つ性質を記述できるなど、問題を正確に読み取り、一般化する能力に課題があると考えられる。また、基礎的な計算力にも課題があった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
全体的に、学校や先生に対して好意的であり、充実した学校生活を送ることのできている児童が多いことがうかがえる。しかし一方で、学習に対しての苦手意識を感じている児童も多い。特に、本校の特徴と考えられる質問項目は、以下のとおりである。 ○ 自分には良いところがあると感じている児童が多い。 ○ 困っている友達を助けようとすると回答した児童が多い。 ○ 地域のために活動をしたいと考えている児童が多い。 ● 国語や算数の学習を楽しいと感じている児童が少ない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

国語科に関しては、書くことに抵抗をなくすための語彙力を高める指導や読解力を高める指導を行っていくようにする。具体的には、チャレンジタイムを活用しての、漢字フラッシュや短答式の問題に挑戦する時間を設定する。算数科に関しては、基礎的な計算力の向上を目指し、チャレンジタイムでの百マス計算や記述式の問題に取り組んでいくようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

読書や新聞を読むなどの項目で、低い傾向が見られるため、家庭での読書習慣の確立や新聞を用いた学習などを仕組んでいく必要がある。学習の中で並行読書を仕組んだり、新聞を書いたりする家庭学習を取り入れていくようにする。